

【添付資料①】

《経路選択等に関するお役立ち情報》

【山陽自動車道・中国自動車道】

特に、5月3日は、広島JCT(広島市)から神戸JCT(神戸市)まで山陽道経由の場合、朝から昼過ぎにかけて、八本松TN付近(広島県東広島市)で25km、坂田TN付近(広島県福山市)で10km、玉島IC付近(岡山県倉敷市)で15km、二子TN付近(岡山県倉敷市)で5km、尼子山TN付近(兵庫県赤穂市)で10kmの交通集中渋滞がピーク時に発生すると予測しており、各渋滞を通過するのにピーク時は15分から1時間15分程かかるの見込んでおります。

広島JCTから神戸JCTまで中国道経由の場合、三次東JCT付近を先頭にピーク時5kmの交通集中渋滞が発生する以外は、ピーク時5km以上の交通集中渋滞が発生しないと予測しております。広島東IC以西から神戸JCT以東へ向かわれる方は中国道経由もご検討ください。

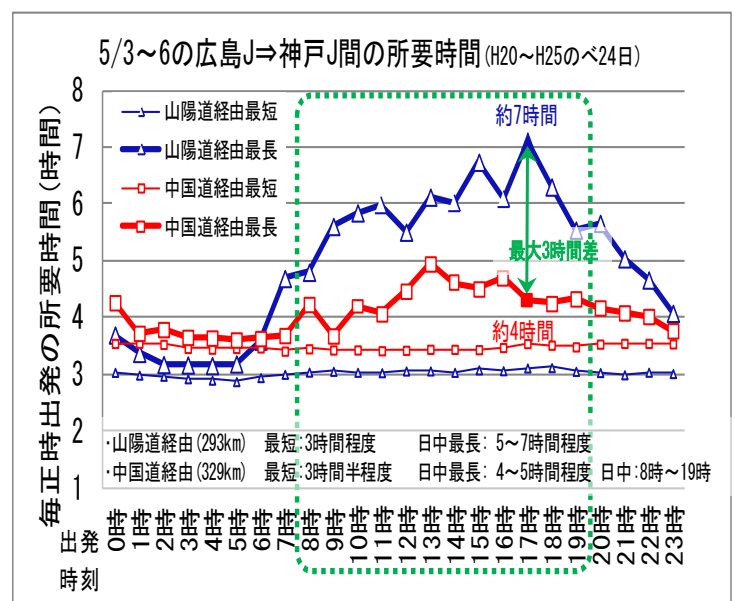
なお、中国道経由の場合、夜間約140km先まで給油できない箇所がありますので、燃料切れには十分ご注意ください。(最長給油所間距離 中国道経由:七塚原SA～勝央SA間137km、山陽道経由:吉備SA～龍野西SA間65km) 詳しくは、(<http://www.w-holdings.co.jp/gasoline/260301west.pdf>)をご覧ください。

(5月3日に山陽道と中国道の上り線(広島JCTから神戸JCTまで)で予測しているピーク時5km以上の渋滞)



過去のGW 期間(平成20年～25年の5月3日～6日のべ24日間)の実績では、広島JCT(広島市)を出発し、山陽道経由で神戸JCT(神戸市)まで走行(293km)した場合、順調時は3時間程度で到着できていましたが、事故等による渋滞の影響を受けた時は最長で7時間程度かかりました。

一方、同一区間を同時刻に出発し、広島北JCTから中国道経由で走行(329km)した場合、順調時は3時間半程度と山陽道経由より30分程度長くかかりましたが、ほとんど渋滞の影響を受けないため、最長でも4時間から5時間程度で到着できており、山陽道経由より最大で3時間程度早く到着(17時出発の場合)できていました。

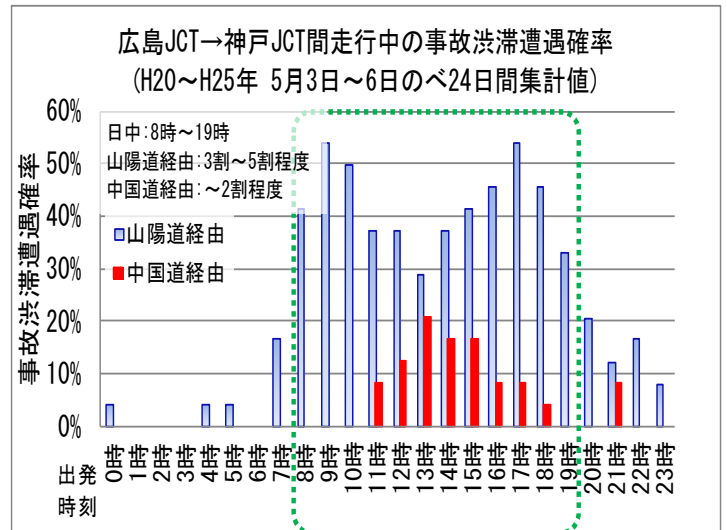


所要時間は車両感知器データを基に算出した値で事故等の影響を含みます。

また、同期間(過去 6 カ年の GW)に広島 JCT から神戸 JCT 間を走行する間に事故渋滞に遭遇した確率を山陽道経由で走行した場合と中国道経由で走行した場合とで比較したところ、日中時間帯(8 時から 19 時まで)に出発した場合、山陽道経由では概ね 3 割～5 割でしたが、中国道経由では最大でも 2 割程度でした。

中国道経由は山陽道経由に比べて、事故渋滞に巻き込まれる確率が低いですので、中国道経由もご検討ください。

なお、実際に経路選択される際には「アイ ハイウェイ」(<http://ihighway.jp>)で各経路の最新の交通情報をご確認ください。

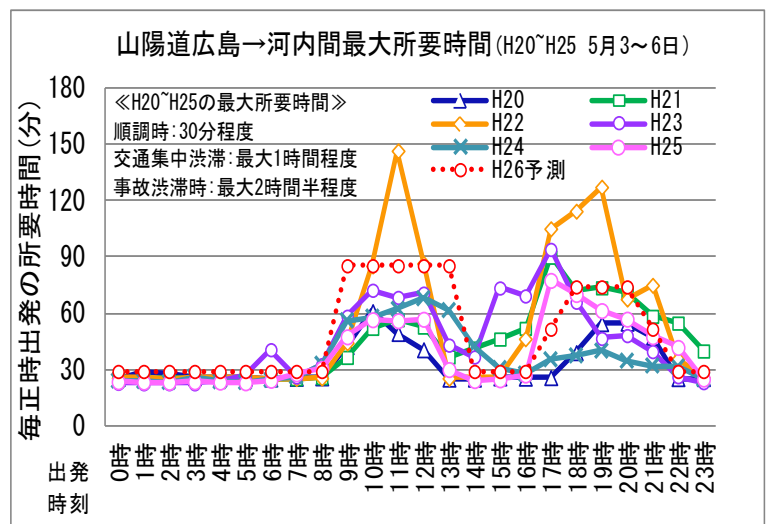


事故渋滞遭遇確率とは、指定した区間を走行中に事故渋滞に巻き込まれた確率のことと定義し、過去の渋滞実績データ等から計算したものです。

《広島 IC から広島空港へ向かわれる方へ》

山陽道で広島 IC から広島空港最寄りの河内 IC まで(39km)走行した場合、過去 6 年間の GW 期間(平成 20 年～25 年の合計 24 日間)の実績では順調時 30 分程度で到着できていましたが、10km 程度の渋滞が発生した場合は最大 1 時間程度かかりました。なお、20km を超える事故渋滞に巻き込まれた場合は、最大で 2 時間半程度かかりました。

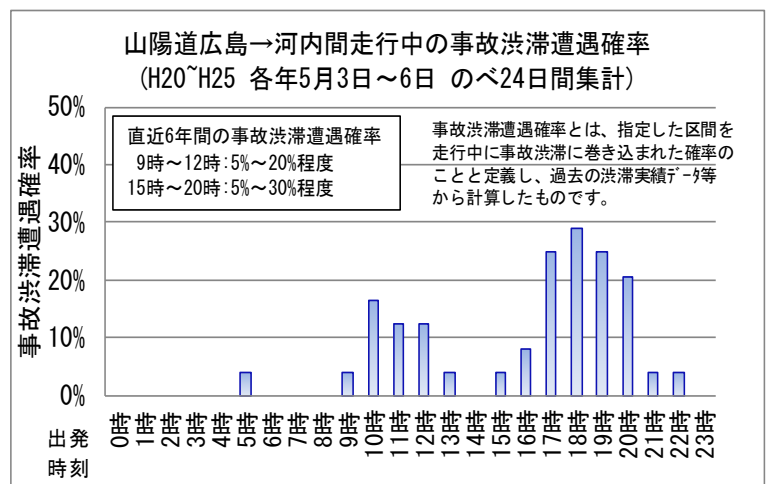
GW 期間は特に 5 月 3 日、4 日、5 日の午前中から夜間にピーク時 20km～25km の交通集中渋滞を予測していますので、最大 1 時間半程度かかるものと見込んでおります。



所要時間は車両感知器データを基に算出した値で事故等の影響を含みます。

同期間(過去 6 カ年の GW 期間)の午前(9 時～12 時)と夕方(15 時～20 時)に広島 IC を出発した場合に事故渋滞に遭遇した確率は 5%から 30%程度であり、マイカーやリムジンバス等で移動される際は、搭乗予定の便に乗り遅れないためにも相当の時間的余裕を持たれることをおすすめします。

ぜひ、リムジンバス等のご利用前に「アイハイウェイ」をご確認いただき、10km 以上の渋滞が発生している場合は、広島駅から鉄道と連絡バスで広島空港まで向かわれることもお考え下さい。この場合の所要時間は約 1 時間程度(乗り継ぎ時間は含まず)です。



平成 26 年 3 月 29 日をもちまして、「空港連絡バス多頻度運行社会実験」は終了しますが、3 月 30 日から、利用頻度の高い時間帯を中心に直行便の運行が一部継続されます。

詳しくは広島空港のウェブサイト(<http://www.hij.airport.jp/access/index.html>)をご覧ください。